発刊のあいさつ

浦添市教育委員会教育長　保久村昌伸

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年度）に「琉球王国評定所文書」第一巻を刊行しました。これまで琉球王国の近世史にとって重要な文書であると言う高い評価を得ながらも、同文書は断片的にしか翻刻出版されることはありませんでした。当教育委員会では、現在確認されている全資料を「琉球王国評定所文書」という形で刊行することを目的に事業を推進しております。当初、全十二巻を五年間で刊行する予定でしたが、国立公文書館資料分の追加や史料集としての正確さを高めるという事情により、一九八八年度（昭和六十三年度）に計画の見直しを行い、刊行事業計画を改訂致しました。新計画は全十八巻十年刊行計画です。

浦添市は、歴史的には「うらおそい」の言葉にも示されるように、沖縄本島の政治の拠点として栄え、特に大交易時代と称される時期には中国等とも貿易を行っていました。この歴史的なつながりをもとに、一九八八年（昭和六十三）九月二十三日に中国福建省泉州市と友好都市の締結をし、この画期的な事柄を記念して、「琉球・中国交流史をさぐる」と題した学術・文化討論会を開催いたしました。このような「国際性ゆたかな文化都市」をめざす文化事業の一環として「琉球王国評定所文書」刊行事業を推進しております。

本事業が琉球・沖縄歴史の研究の発展にいささかなりとも貢献することになれば、これに過ぎる喜びはありません。本事業の遂行にあたっては、新たな史料発掘作業を始めとして幾多の困難が予想されますが、各位の従前にまさるご

理解とご協力とによって、その完遂を記したいと決意しています。

「琉球王国評定所文書」第二巻では、東京大学法学部法制史資料室所蔵の琉球評定所記録（旧琉球藩評定所書類）の中から旧琉球藩評定所書類目録の番号に従って目録番号一三三八号～一三八六号までを収録しました。史料の大まかな内容としては、一八四一年（道光二十一）から一八四七年（同二十七）までの年代のもので、薩摩藩からの下状、琉球から同藩宛の文書、進貢船の帰港時の改め、同船の仕出日記、等々からなっています。琉球・沖縄歴史の解明の上で重要な史料集になるものと確信しております。多くの市民をはじめ研究者の間で広く活用されることを願っています。

最後に、本事業のために貴重な資料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました東京大学法学部法制史資料室並びに国立公文書館の関係各位、また、史料の筆耕解読にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げ、発刊の言葉と致します。

なお、一九八八年十二月にお亡くなりになられました当編集委員会委員長島尻勝太郎氏の御冥福をお祈り申し上げます。

一九八九年（平成元）一月吉日